

釣れ釣れなるままに

2003年思い出の釣行記 PART. 2



釣遊会第2回大会

☆開催日	平成15年5月11日
☆場所開催	折川～栄浜港
☆入釣場所	大平トンネル裏 (ワスリ)
☆潮	干潮 05:12 1cm
	満潮 13:35 16cm
☆釣果	カジカ 445 cm 1匹
	アブラコ 455 mm 2匹
	ホッケ 1匹
	ハチガラ 323 mm 1匹
	重量 5150g
☆成績	合計 1415点
	成績 1位
	持ち点 1点
	累計点 4点 (3, 1)



汚名挽回？

入釣場所は第1候補を穴潤平盤とし、他に蒲原平盤、豊浜平盤、軽臼平盤と考えを巡らせていた。バスの中で、吉井氏がワスリにもう一度挑戦したいと言う。昨年度の吉井氏は歌島平盤に入って優勝を遂げたが、今年度は大会範囲に入っていない。様々に思い悩んでの結果なのだろう。

「ワスリ」。一昨年 of 苦い経験を思い出す。この時も、吉井氏と一緒にワスリに向かったのだが、釣遊会に入って初めてのボンズを経験したのだ。入釣時に大きな波飛沫の洗礼を受けてずぶ濡れになり、海が底荒れしていて根掛かりばかりを繰り返したのだ。

今回はべた風を予報しており、0点の汚名を返上したいところだ。パソコンで汚名挽回と打ち込んだところ《汚名返上/名誉挽回の誤用》と知らせてくれる。大変便利なものである。

吉井氏もそれほどよい思いをした訳ではなかったと思うが、海岸線が複雑に入り組んでおり、もう一度という気にさせる魅力的な所である。お互いに「お前が行くなら俺も行く」と言う具合にすんなりと話がまとまった。



新エサと改良仕掛けの効果は

大平トンネルをぬけた所で、吉井氏と共にバスから降りた。あの岬までの凸凹の激しい道程を歩かなければならないのかと思うとうんざりする。しかし、その険しさ故に釣りが荒らされておらず、大物も潜んでいるような気もしてくるのである。ところが、床丹からワスリ方向の各岬には点々とギョギョライトの青白い光が輝いている。しかも、僅

かに後から釣りバスを降りた釣り人が私たちと平行に歩いている。吉井氏がリュックを置き、竿とバックンだけを持って先に進んだ。そして、彼の意中の盤に乗って、早速竿をセットした。リュックは後で取りに戻るらしい。

私はさらに先を急ぐ。ワスリで一番の大平盤（A）には5～6人が並んでいるのが分かる。残念だが私に入釣出来るような隙間は無さそう。さらに、先（B）を目指して進む。大平盤の右に前方が開けている良さそうな細い盤があった。その盤への入り口は海が僅かに切れ込んでいて、渡れそうで渡れない。切れ込みの真ん中に足を乗せることが出来る小さな岩が海面すれすれに出ているが、苔が表面を覆い、ツルツルと滑る。空身では渡れるのだが荷物を担いでとなるとちょっと困難である。荷物を一旦置いて、空身で先に出てみる。平盤の周りを昆布根が取り囲み、そのすぐ先はキャップライトの光が届かない深さとなっている。なかなかの海況だ。しかし、無理することはないだろう。ワスリは私にとっての鬼門である。そこを諦めてさらに進む。先程ほど平行に歩いていた釣り人が湾尻で荷物を下ろした。私はさらに先に進んで誰もいない比較的大きな出岬（B）に荷物を下ろした。

早速、1本を遠投に、2本を近投にして仕掛けを投入する。近投の仕掛けは、日本海用にと、根がかり防止とホッケ用に改造したものである。上バリを付ける両天秤に0.6mmのステンレス線を使用して、潮の僅かな流れや魚が啄むエサの動きでユラユラと微妙に揺れて魚を誘うようにしたものだ。効果が楽しみなところである。

今回の釣行のエサに蛍イカを加えた。エサのサンマの購入のために食料品売り場を眺めていると、蛍イカが1パック置いてあった。丁寧に1匹ずつ区分けされてラップされているが、釣り場にゴミを持ち込まないようにと、ビニル袋にゴソッとまとめて入れてきた。嵐氏に言わせると、「1匹ずつ区分けされているのに意味があり、それを丸ごとビニル袋に入れてしまうと、イカの表面の輝きが失われ、海中で光らなくなる」とのことだ。

早速、その仕掛けと蛍イカにホッケが来た。新しい仕掛けとエサの効果は観面である。これだから仕掛けやエサの種類が増えるわけである。魚が釣れた原因には違う要素もあり、その時々偶然さが重なったと思われるが、今日は自分を信じよう。赤みを帯びた旨そうなホッケである。ホッケがぱたぱたと来たが、竿を締め込むような大物は来ない。

大物はカンオに

左の入り江から伸びる溝に打ち込んでいた中投の竿がガッ、ガッ、ガッという音と共に海中に引きずり込まれそうになった。竿を大きく煽るとガツン、ガツンと竿を揺らし、溝に向かって鋭角的に走ろうとする。強引に抜き上げるとイカゴロを口いっぱいに銜えて30cm上の見事なハチガラが盤の上でバタバタと跳ね回っている。体高があり、デブプリとしたお腹をかかえ、背中や腹に水色のまだら模様を配した美しい魚である。縮まらないようにとフラシに入れて潮溜まりに浸ける。型は小さいが一応2魚種5匹は揃った。まだまだこれからである。

近投の竿に大アタリ。カツオを銜えて45cm程の丸々と太ったアブラコが上がった。魚をフラシに入れてからエサを付け替えているところに「釣れますか」と声がかかった。振り向きもせず「だめですね」と応える。エサ付けを終えて振り返ると、抜かし抜かされて釣り場に入った御仁がフラシを覗いている。今し方釣れたばかりのアブラコを見ながら「いい魚ですね」とくる。名前を伺うと、『札幌潮鱗会』の山本裕氏である。彼も湾尻から私の左にある出岬に出ると言って荷物を移動させた。

クィン、クィンとアタリが出て、道糸が大きくフケた。手元に来てから海底目指して刺さり込むカレイ独特の引き込みで30cm程のクロガシラが上がった。隣の竿にも同型のクロガシラが来た。

道糸が右へ右へと大きく移動する。タコだ。大きく竿を煽って取り込みに入る。タコが掛かると大変忙しい思いをする。抜き上げることが出来ないような大物を取り込む場所は入り江の左方向にある一段低くなった所と考えて、釣りを開始している。そこまでタコを移動させるためには、まず左隣にある2本の竿を交わさなくてはならない。隣の竿と道糸の間にタコを誘い込み、私もその間をくぐり抜ける。竿を持ちながらタコを掴むための軍手を拾って手にはめる。タコは海水を吐きながら深みへと逃げ込もうとする。ようやく、低くなったところへ大ダコを導くことが出来た。少し海面からの距離がある。岩壁に張り付かれないようにと慎重に竿を操る。ウネリがやって来て海面が盛り上がった時にタコの足を掴むのだがウネリが去るとズルズルと抜けていく。何度も何度も同じことを繰り返すが、上げることが出来ない。終いには岩壁に張り付かれて底へ底へと潜り込んでいく。岩壁から剥がそうと強く竿を煽ったときにはハリスが切れてしまった。

がっくりと項垂れて仕掛けを取り替え、エサを付けている目の前で竿尻がスーッと持ち上がった。そして、バツコン、バツコンと揺れ出した。竿を煽ると大物の手応えである。沖の方から大口を開けてバシャバシャと近づいてきた。これも、出岬の先で小高くなっているので抜き上げようとしてもボロ竿のためすんなりと上がっては来ない。ハリ掛かりしている場所も心配である。先程と同じように湾尻の低いところまで引きずってやっとの思いで上げることが出来た。45cm程のカジカがカツオを銜えて岩盤の上に横たわった。

隣の出岬に入った山本氏もよい釣りをしているのか、ひっきりなしに竿先を大きく曲げては魚を取り込んでいる。後日の新聞記事では準優勝に記録されていた。しかも、点数が1423点とある。

ワスリとは忘却なり

背後の山並みの稜線が鮮明になってきた。遠く大平川の河口やそれに続く各平盤にも釣り人の姿が見える。陽が高くなってからはさっぱりアタリが途絶えてしまった。

携帯電話で吉井氏と連絡を取るが、盛んに竿を上げているところなのであろう「今、携帯に出ることが出来ません。メッセージをお願いいたします。」とくる。ややしばらくして向こうから電話が掛かってきた。「5匹は揃った」と言う。「私も」と合わせる。「何が釣れ

た」「アブラコとカジカ」「どれぐらいある」「どちらも45cm」「そんなら優勝だわあ」

カモメが辺りを騒がしく飛び始めた。今日はもう満足である。早めに片づけ9時には帰路につく。吉井氏の所に寄り道をすると「まだ、時間あるべや」と盛んに竿を振り続けやめようとはしない。吉井氏が竿を振りながら語る。

「入釣した時にリュックを海岸線に置いて、竿とバツカンを持って先に竿を出した。その後、リュックを取りに戻るが、そのリュックが見あたらない。石原を懸命に探すが出てこない。明るくなってからと思い、竿の所に戻り、しばらく釣りをしていたが仕掛けがなくなってきた。暗い内にもう一度探すが出てこない。薄明るくなってから同じ所で探すと、捜していた所から僅かしか離れていない低い防潮堤の上にデンと乗っていた。」

リュックを置いた時は目に付くようにと意識して防潮堤に置いたのだろうが、釣り場に早く立ちたいという気持ちが焦りを呼び、忘れさせてしまったのだろう。名前がよくない。

ワスリ、わすり、忘り・・・。

仲間の島氏も何度か同じ経験をしているのであろう。出発前にはいつもイカ釣り用の大きなケミカルライトをリュックにぶら下げている。仲間から冷やかされているが、自分の行動を熟知した用意周到な手立てなのだろう。この明かりでエサ付けぐらいは出来ると言う。



審 査 結 果

優 勝	鹿 島 釣 狂	1 4 1 5 点 (アブラコ455mm+カジカ 445mm+5150g)	鷹の巣
準優勝	堀 内 正 博	1 2 3 7 点 (ホッケ 421mm+アブラコ416mm+4000g)	狩場
3 位	岡 英 成	1 1 8 0 点 (アブラコ415mm+ホッケ 390mm+3750g)	狩場
4 位	吉 井 博	9 8 0 点 (カジカ 359mm+ホッケ 357mm+2640g)	鷹の巣
5 位	阿 部 重 義	9 7 4 点 (アブラコ402mm+ホッケ 355mm+2170g)	狩場
身長優勝	山 岸 伸	アブラコ 44.4cm	植車

入釣時に釣り上げたハチガラは32.3cmもあり、自己記録更新となった。



釣遊会第2回大会の昼食は焼き肉が恒例となっている。砂浜が見える草原でジンギスカン鍋を囲んでの談笑が続く。執念を燃やした凄まじい戦いを終えて、ほっとするひと時でもある。この時ばかりは、普段は口にしない自分の穴場も公開することになる。今日のワスリについても私の法螺話と自慢話から詳細なポイントが皆さんに伝わっていく。吉井氏ももう一度挑戦したいと言っているが、自分の技量を満身に発揮できなかった悔しさが彼にそう言わせるのであろう。私もこの界限を自分の縄張りにするべく丹念に探りたい気持ちもある。また、昨今は頓に忘れ物が多くなってきている。この思いを忘却しないよう、近いうちにもう一度、ワスリに展開したいと考えている。